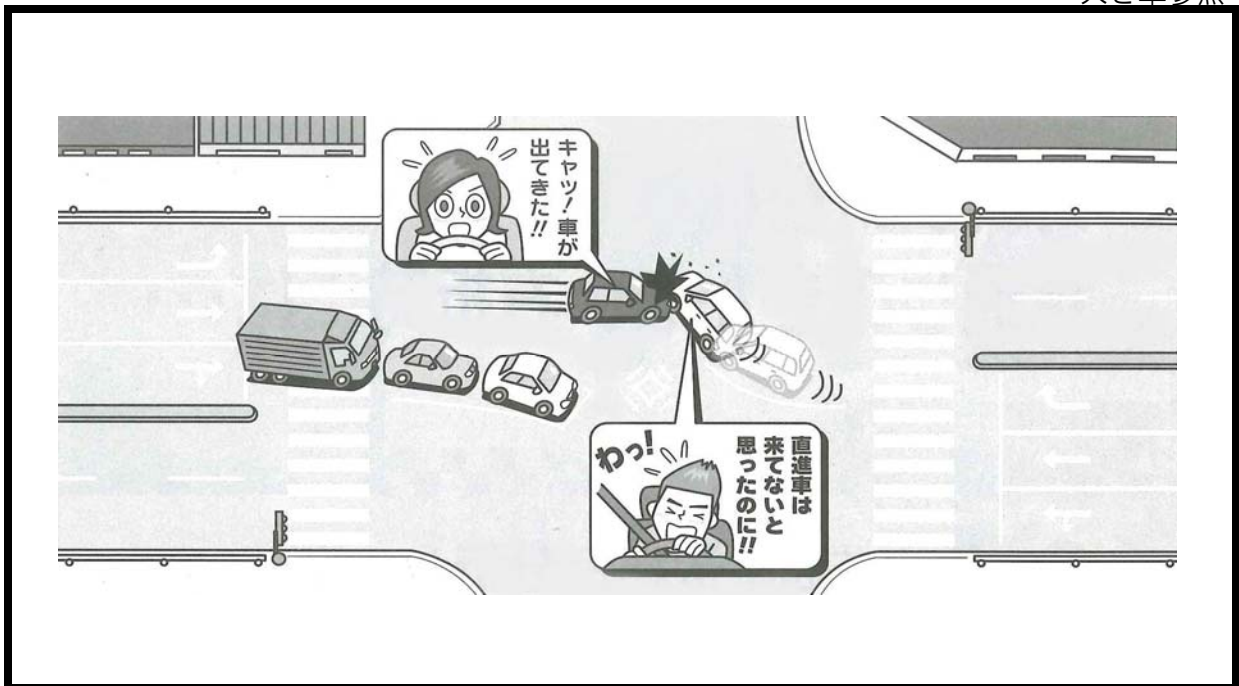


■事故の概況

人と車参照



事故類型：右折時

発生日時：平日 正午頃

当事者A：普通貨物車 30歳代 男性

当事者B：普通乗用車 20歳代 女性

■ 事故の概要

Aは、片側2車線で右折専用車線の信号機のある大きな交差点を右折しようとする際、対向の右折車線に車両が三台くらい停止しており、その最後尾に大型トラックがいたために、対向の直進車線の見通しがほとんどきいていませんでしたが、なぜか対向直進車はいないだろうと思いこんでしまい、右折を開始しました。

Bは反対車線から青信号の当該交差点を直進しようとしていました。同方向の右折車線に待機車両があり、対向車線側の見通しが悪いにもかかわらず、自分が優先であり、右折車がいたとしても待っているだろうという認識で減速せず交差点に進入し、自車線側の右折車両の陰から出てきたA車を認知した時には既に間に合わず衝突してしまいました。

■ 事故から学ぶ

右折専用レーンのあるような幹線道路の交差点では右折可の矢印信号が設置されている場合が多いので、無理に前方の確認をするよりも右折可の矢印信号を待ってから進行することが安全上賢明かもしれません。逆に、右折レーンに待機車がいて対向右折車が見えない交差点を直進する場合にも、信号の変わり目での直進通過はとても危険です。交差点内の状況がつかめない場合は、いつ右折車が飛び出してきたとしても避けられるように減速することです。自分から対向車が見えないということは、相手からも認知されていない場合があるということです。右折車、直進車双方とも、いないだろう、止まってくれるだろうという甘い読みは避け、「右折車が侵入してくるだろう」「直進車が減速せずに来るだろう」と危険な場合をも想定した上で運転すべきです。